

「シーピープラス (CP+) 2018」 「震災対策技術展 2018」

神谷 直亮

今月は、「カメラと写真映像のワールドプレミアショー」を旗印に掲げた「CP+ (シーピープラス) 2018」と災害対策用の衛星通信システムが紹介された「震災対策技術展 2018」についてレポートする。

「CP+ 2018」

3月1日から4日まで横浜市のパシフィコ横浜で開催された本展示会については、本誌4月号ですばらしい写真入りのレポートがなされているが、あらためて筆者なりに目に付いた内容を取り上げてみたい。

まず、今回の特色を挙げると、ミラーレスカメラに勢いが感じられた。次いで、ソニー、ニコン、パナソニック、キヤノン、フジフィルムという5大出展社に加えて、カールツァイスとリコーがVRを紹介し、DJIがドローンのデモを実施して会場に彩りを添えた。

ソニーは、ミラーレスカメラ「α」シリーズのベーシックモデル「α7Ⅲ」と昨年5月に発売したフラッグシップモデル「α9」を目玉にして出展した。新製品の「α7Ⅲ」は、2,420万画素 35mmフルサイズ裏面照射型CMOSセンサーを搭載しており、10コマ/秒の連写が可能である。発売は、3月23日の予定とのことであった。なお、設定を低めにしたにもかかわらず上位モデル並みの機能を搭載したこの「α

7Ⅲ」は、今年のレンズ交換式カメラ部門のワールドプレミアアワードを受賞した。

一方、プロ向け動画エリアでは、圧倒的なパフォーマンスを実現するXDCAM「PXW-Z90」を訴求した。ブースの担当者によれば、「1.0型積層CMOSイメージセンサー Exmore RSを搭載し、高速オートフォーカスと4K HDRに対応している」という。

ニコンは、同社のデジタル一眼レフカメラ史上最高の4,575万画素を有する「D850」を前面に押し出していた。ブースの担当者は、「フォトグラファーの必需品として高い評価を受けている」と誇らしげに語り、「D850のインターバルタイマー撮影機能を使えば、8Kタイムラプスムービーの制作も可能」とPRに余念がなかった。これを受けて、0.5秒のタイムラプスで撮影した素晴らしい8K映像の数々がブースで披露され注目の的になった。ニコンのもう一つのアトラクションは、D850を使って撮影した著名なカメラマンの数々の作品を紹介する「Nシアター」であった。筆者が訪れた時には、三好和義が撮影した「楽園を探して」が上映されていた。

パナソニックは、「GH5S」と「G9」を盛んに売り込んでいた。ハイエンド・ハイブリッド・ミラーレスカメラ「GH-5S」は、世界初のCinema 4K/60p動画記録、

4:2:2 10bit Cinema 4K/30p動画記録を可能にした製品で、1月25日に発売したばかりという。特長としては、新開発デュアルネイティブISOテクノロジーを搭載したイメージセンサーで高感度画質を実現している点が挙げられる。「G9」は、ルミックスシリーズで最高画質を誇るミラーレスカメラの旗艦モデルで、「20コマ/秒の連写性能を持つ」と強調していた。

プロ向け動画エリアでは、予想通り4Kカメラレコーダー「AU-EVA1」のPRが行われた。5.7Kスーパー35ミリイメージセンサーを搭載し、4:2:2 10ビットに対応できるのが特色である。

キヤノンは、4K8K体験シアターを設営して、同社の4Kプロジェクター「4K600Z」による上映を行った。8Kカメラで撮影したコンテンツは、「2017年ルヴァンカップ決勝戦」で、セレッソ大阪対川崎フロンターレの試合を、150インチのスクリーン3面に6台の4Kプロジェクターを使って再生していた。ブースの担当者によれば、「8Kカメラ1台で撮影した映像から3面を切り出し、キヤノン独自の技術で変換してシームレスに出力している」という。メリットとしては、マルチカメラによる撮影に比べてハンドリングが容易な点を挙げていた。4Kコンテンツは、60p内部記録を可能にしたCINEMA EOS C700カメラで撮影したという「イタリアとフランスの世界遺産」で、こちらの方は、プロジェクター2台で上映された。「EOS C700」は、4K 120p RAW出力も実現するハイエンドなCINEMA EOSカメラのフラッグシップモデルと言える。

カメラの新製品に関しては、3月下旬から販売する予定という「EOS Kiss M」に注目が集まった。新映像エンジン「DIGIC 8」を搭載したミラーレスカメラで、エントリークラス向けの一眼レフカメラとして知ら



写真1 ソニーは、最新のミラーレスカメラ「α7Ⅲ」(右)と旗艦モデル「α9」(左)を出展して来場者の注目を集めた。



写真2 パナソニックは、ハイエンド・ハイブリッド・ミラーレス一眼カメラ「LUMIX GH5S」を前面に押し出していた。



写真3 ニコンは、デジタル一眼レフカメラ「D850」を使ってインターバルタイマー撮影した「8K Time-Lapse Movie」を紹介して脚光を浴びた。



写真4 カールツァイスは、スマートフォン対応型VRヘッドセット「ZEISS VR ONE Plus」を出展して、来場者に試遊を促していた。



写真5 リコーは、4K 動画撮影が可能な全天球カメラのハイスペックモデル「THETA V」を発表した。

れる「EOS Kiss」のミラーレス版と言える。ブースの担当者は、「Kiss Mは、フルHD 60pはもちろん 4K 24pの動画撮影機能も持っている」と説明していた。

フジフィルムは、3月1日に発売したばかりのミラーレスカメラ「X-H1」に焦点を絞って出展した。フジノンXFレンズ、2,430万画素のX-Trans CMOS IIセンサー、X-Processor Pro、5軸対応ボディ内手ブレ補正機構、シャッター衝撃吸収システムなどを搭載した同社自慢のカメラである。

変わったところでは、カールツァイスが、スマートフォン対応型VRヘッドセット「ZEISS VR ONE Plus」を出展して、来場者に試遊を促していた。コンテンツは、インドで撮影したという珍しい360度映像で、価格については、「1台1万5800円で販売している」と語っていた。

リコーは、昨年出展して注目を集めた全天球カメラのスタンダードモデル「THETA SC」に加えて、今回4K動画が撮影可能なハイスペックモデル「THETA V」を発表した。4K動画のフレーム数と連続撮影時間を聞いて見たら「30fpsで25分」との回答であった。同社のブースでは、「THETA V」で撮影した4Kコンテンツを「Stealth VR」で試遊できるアトラクションも行われた。促されるままに試遊してみたら、映像に360度空間音声が入り込んで臨場感あふれるVRが楽しめた。

民生用ドローンと空撮技術で世界をリードするDJIは、今回ミニドローン「SPARK」で注目的になった。「楽しさは、ビッグサイズ」を謳った「SPARK」は、プロペラを除く寸法が143 x 143 x 55mmと

超小型で、バッテリーとプロペラを含む重量は300gしかないにもかかわらず、フルHDの映像を16分間撮影できる。価格を聞いて見たら、54,800円との回答であった。

「震災対策技術展 2018」

第22回を迎えた「震災対策技術展」は、2月8日、9日にパシフィコ横浜で開催され、ソフトバンク、情報通信研究機構(NICT)、ウェザーニューズが災害対策用の衛星通信システムを紹介した。

「つながる安心」を旗印に掲げたソフトバンクは、スラーヤ(本社、アラブ首長国連邦)のグローバル衛星携帯電話端末「501TH」と屋内利用を実現するドッキングシステム「FDU-XT」を出展して、人型ロボット「ペッパー」の力を借りて熱心に売り込んでいた。最新の「501TH」端末は、コンパクト、軽量、防水、防塵を誇っており「災害時にも手軽に安心して使える。天候不良の海や山でも利用できる。国内で最長約9時間の連続通話が可能」と説明していた。

情報通信研究機構は、超高速インターネット衛星「きずな(WINDS)」による災害対策衛星通信、宇宙天気予報、技術試験衛星9号機の計画を3本柱にして出展した。「きずな」のコーナーには、同衛星のKaバンドに

対応した車載型アンテナが展示され、現在まで日本各地で開催された防災訓練で活躍した数々の様子が紹介されていた。ブースの担当者は、「衛星を打ち上げてからすでに10年がたつが、移動中でも24Mbpsのブロードバンド通信を実現している」と誇らしげであった。

宇宙天気予報のコーナーでは、「太陽からの光、電波、高温の大気、これらのバリアーとなっている地球の磁気圏や超高層大気が、毎日どのように変化しているかを調べて、予報を出している」との説明がなされた。ユーザーを聞いてみたら「衛星オペレーター、航空会社、電力事業者、短波利用機関など」とのことであった。

平成33年度に打ち上げが予定されている技術試験衛星9号機については、「Kaバンドを利用する100Mbps超の高速大容量通信、100Gbps級の光通信、変動するトラフィックに対応する可変ビームによる中継などを実現する最高度の技術試験衛星になる」と意気込んでいた。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

緊急報道
ハイビジョン映像伝送
Ku-band/X-band

CGTスーツケース **90cmφ型 2タイプ有り**
120cmφ型

衛星通信用超小型可搬アンテナ
Suitcase CGT Satellite Communications Terminal




IATA対応収納ケース
その他にも1ケース収納型から3ケース分割型など各種ケースあり

エーティコミュニケーションズ株式会社
http://www.bizsat.jp TEL : 03-5772-9125

